「長野県景観育成計画」の改定に係る意見募集（パブリックコメント）の結果について

○ 意見募集期間 令和7年7月22日（火）～令和7年8月22日（金）

○ 意見の総数 20件（4者）

No.	項目	該当箇所 (ページ)	意見内容	県の考え方
1	1. 長野県景観育成ビジョンについて	【資料3】 1-3 ビジョンの位置づけと計画期間(P4)	計画期間10年は長すぎる（以前は10年ひと昔・今は5年ひと昔）	本ビジョンは長野県全体の景観育成の目指す姿や景観育成の理念等を多様な主体と共有するために策定するものであり、そうした基本的な考え方については、概ね10年間は計画期間として継続するものとしております。 なお、ビジョン実現のための取組方策として、県の施策等による実行計画を作成し、進捗管理を行ってまいります。この取組方策に係るビジョンの内容は、必要に応じて5年ごとの見直しを想定しております。
2			P D C A のサイクルは2年ぐらいがいい	ビジョンに基づく実行計画は、県が実施する事業内容に基づき策定し、毎年度、実施状況について県景観審議会と共に点検評価やスケジュールの確認を行いながら進めてまいります。
3			・実施主体を明確にしないと絵に描いた餅になる（隣県・広域景観エリア・市、町、村域間の調整主体はどこが担うのかビジョンに入れる） ・法律で優先される事業の調整主体（電気事業法、国有林、鉄道運輸、電波・電気送電・鉄塔・電信柱、配電等、国有林の皆伐育林法） ・車窓からの景観について（航空機・鉄道・車両等） ・あるべき姿、改善、継続、期限、事業主体。人、物、金のビジョンがない	ご指摘のとおり、景観育成にあたっては様々な主体と連携した取組が必要となりますので、ビジョンにおいては、パートナーシップによる景観育成としてそれぞれの主体に期待される景観育成の役割を位置づけました。 県としましては、県全体の景観育成の方針をお示し、目指すべき景観育成をあらゆる主体と共有しながら、景観育成における調整役として機能するよう努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。 また、これからの景観育成におけるあるべき姿として景観育成の基本理念及び将来に向けた景観育成の3つのビジョンを定め、そのビジョンの実現に向けて、様々な主体と共に取り組む方策を定めた内容としております。
4		【資料2】 第4章景観育成の5つの取組 取組方針②-④(P2) 【資料3】 取組方策②-④ 広域景観アセスメント制度の創設・運用(P22)	取組方針②-④に示すイメージ図に送電線が記載されているが、送電線そのものが影響度合いが大きいと解釈できてしまう。送電線建設自体を妨げるような過度な規制とならないようお願いしたい。	大規模な構造物の計画は、景観に対する相応の影響が予想されるため、イメージ図として掲載したのになります。一方で、社会基盤として必要な大規模構造物も存在することから、建設自体を妨げるものではありませんが、可能な限り広域景観への影響を抑えていただくようお願いいたします。
5		【資料3】 取組方策②-④ 広域景観アセスメント制度の創設・運用(P22)	図「周辺への景観的な影響度合いの大きい行為のイメージ」に「近景から遠景に連続する構造物」との記載がある。送電線（鉄塔）の場合はその特性から連続する構造物しかならざるを得ないため、送電線建設自体を妨げるような過度な規制とならないようお願いしたい。	〃
6		【資料3】 取組方策②-④ 広域景観アセスメント制度の創設・運用(P22)	図「周辺への景観的な影響度合いの大きい行為のイメージ」に「中景、遠景部の周囲の景観に違和感を生じさせる構造物」との記載がある。違和感を生じさせる構造物とは抽象的な表現のため、送電線建設自体を妨げるような過度な規制とならないようお願いしたい。	〃
7		【資料3】 取組方策③-③ 無電柱化等の整備の推進に対する要望(P23、25)	無電柱化を計画する場合は、道路管理者主体（電線共同溝方式）での整備をお願いいたします。	円滑な事業の遂行につながるよう、関係者の皆様との調整に努めてまいります。
8			拡幅等を計画する場合は、同時施工による電線共同溝の整備をお願いいたします。	〃
9			震災、台風、竜巻などの天災による設備復旧については、既存電柱の取り扱いと同等として扱えるようお願いいたします。	〃
10			道路法第32条第1項若しくは第3項の規定に基づく許可がなされた電柱（既存の電柱）については、無電中化事業が完了するまでの間、占用を認めていただくようお願いいたします。（保守目的での更新・新設についても同様）	〃
11			私有地（民地）交渉において、地域住民向けの説明が発生する場合は、道路管理者から説明協力をお願いいたします。	〃
12			行政起因による支障移転等の設備新設等については、占用許可のご検討をお願いいたします。	〃
13		【資料3】 伊那広域景観エリアの景観育成方針 ○河川・水辺(P49、50)	河川の護岸工事において、歴史・文化の継及び復活ができる形でデザインしてはどうか。（南箕輪村の8月行事である「振りまんど」は、昔は天竜川の両岸に人が並んで、振りまんどを競うように回したと聞きました。現在は、グラウンドで行っていて、参加者も少なく関心が薄くなっていますが、本来の姿にできるだけ戻して、夏の風物詩としてPRしながら継承をした方がよいように思う。そのため、地域文化を安全に復活・継承できるような護岸にしてほしいと思います）	地域の伝統や文化の継承は景観育成の重要な要素となることから、広域景観エリアの市町村とともに関係機関と議論の中で、対応等について検討してまいります。
14		【資料3】 木曾広域景観エリアの景観育成方針(P53、54)	・重点、ビューポイント、で区切るのではなく現在が山、川、道路、道、集落が一体となっているので全体で纏めるべき。 ・景観、（借景、眺望が混然となっている）を阻害する看板、送電線鉄塔、道路の標識、街路灯などに目を向けて修景、撤去等の方策 ・馬籠峠・鳥居峠、中山道等の景観保全、夜間の空間（星空）も景観	本ビジョンにおいては、信州の魅力的な景観を更に磨き上げ、未来につないでいくために、各広域景観エリアにおける景観育成方針を定め、重点的に景観育成を図るべきエリア（重点地域）やビューポイント等を記載しております。骨格的な道路や街道、河川、鉄道や歴史的なまち並みを有する歴史・文化拠点や都市機能が集積したまちの拠点を包含した一体的な空間を「景観軸」とし、その周辺に広がる地域を「景観のまとまり」として設定し、エリアの価値を高める取組や景観育成の推進に発展させることを想定しております。

15	2. 長野県景観計画について	【資料5】 第3章 3. 行為の制限(2) 地域区分ごとの基準表1(1) 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更に対する要望 (P10)	配置については、一定の空間をあける場合私有地に設置することが想定されますので、私有地(民地)交渉において、地域住民向けの説明が発生する場合は、都市・まちづくりから説明協力をお願いいたします。	良好な景観育成のため配慮いただきたい事項であることをご理解いただき、設置者から趣旨を含めてご説明いただきますようお願いいたします。
16		【資料5】 第5章 公共施設の整備に関する事項 (P17)	景観計画区域に属さない地域の場合、必ずしも自然環境との「調和」でなく、自然環境を活かした新しい観光スポットの創設として、橋等の改良があってもよいように思いました。 (例えば、伊那市役所に通ずる天竜川にかかる橋の橋桁に、LEDビジョンを設置して観光を誘発する広告を流して、夜景スポットとして、高遠城址公園へ続くモデルルートとして案内するなどしてはどうか。地形的にも車渋滞で人の目に触れることも多いと思われ、広告効果も期待できるのではないかと思う。企業へ周知し、広告収入を伊那市の観光に活かすようにしてはどうか。)	ご意見の内容については、広域景観エリアの市町村とも共有させていただきます。
17	3. 景観法に基づく届出制度の運用改善について	【資料6】 届出対象行為と規模に対する要望	届出については、デジタル化による申請の整備をお願いします。合わせて占用許可申請等と同一申請の処理をお願いいたします。	昨今のデジタル化の進捗に合わせ、申請方法のデジタル化についても検討してまいります。
18	5. その他	【資料1】 長野県景観育成計画見直しの概要	長野県の景観はどうあるべき、どのようにありたいのか・誰のためなのか ・外部に対して誇れる景観は?電気、電信線、電柱、送電塔等、景観を阻害している人口物への対応策 ・借景の確保、地域で守る景観は、構築物は? ・看板、行政の宣伝物(代表例は避け看板)ビル等の宣伝物と色彩 ・今後大きな要素を占める発電装置(太陽光、風力) ・車窓(列車、バス等)からの景観確保(疎外する竹・木類・看板類)	長野県には様々な特色ある景観が存在し、県民はもとより来県者も含め貴重な財産となっております。今回景観育成ビジョンの策定にあたり、景観育成を取り巻く環境や課題を整理し、基本理念を検討し、多様な主体と連携・協働し、未来に向けて信州の美しく豊かな景観をつないでいく精神を踏まえて、基本理念を設定し、景観育成のビジョンや取組を定めております。 また、ビジョンにおいては、各広域景観エリアにおける景観育成方針を定め、広域景観の育成を先導する取組や景観育成の推進を整理しております。 これらの景観保全にあたっては行政界に捉われず広域かつ柔軟な景観育成の取組が必要であると認識しております。なお、行政界に捉われない景観保全の仕組みの一つとして広域景観アセスメント制度の創設を検討しております。
19			市町村の役割 ・眺望について力点をおいて表現しているが、育成計画の力点は景観についての見直し。(眺望はその一端)大事なことは自然景観の保全、保存、整備・ビューポイントの確保が目的でない(眺望・借景含む) ビューポイントにおける、説明、トイレ等の整備 ・景観を阻害する看板類の規制、撤去の指導(県、自治体の条例制定指導方法)	今回、計画の改定においては、市町村界に捉われない広域的な景観育成をテーマとし検討を進めてまいりました。今後の景観育成のあり方を検討する中で広域景観育成の手法の一つとして眺望景観の概念を用いているものであります。この眺望景観の保全にあたっては、景観の阻害が懸念される大規模な建築物等に対する広域景観アセスメント制度や、良好な景観を享受する場となる視点場の整備など、規制と誘導の両輪から取組を進めていく予定です。
20		【全般】 掲載写真について	掲載されている写真、説明文と写真内容が不適(全体に見直し要す)	本県には多くの美しい景観があり、掲載写真の選定にあたっては、様々なご意見があるところかと思われませんが、これまでに市町村との意見交換や審議会等との協議、調整を経て、記載内容や掲載写真等の案をまとめさせていただいたものになりますのでご理解をお願いいたします。